

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研 究 テーマ	静岡県におけるプライマリケア施設までの道路距離と脳卒中による死亡率との相関関係				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
	研究分担者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	井上 健一郎
		所属・職名	看護学部・准教授	氏名	堀 芽久美
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭

講演題目	
静岡県におけるプライマリケア施設までの道路距離と脳卒中による死亡率との相関関係	
研究の目的、成果及び今後の展望	
【研究目的】 脳梗塞急性期に対する血栓溶解療法は神経学的改善をはかるものであり、予後を改善し生存率は劇的に増加する。したがって、自宅と診療所との距離と、その後のアテローム性動脈硬化症の早期かつ適切な診断は、生存にとって重要な要素となる。そんな中、病院もしくは診療所の不均衡な配置は世界的にも深刻な問題となっている。先行研究によればプライマリケア医は、一般住民の病気の予防と健康増進において重要な役割を果たしており、脳卒中の危険因子の管理において極めて重要であると示されている。研究結果において、プライマリケア医の密度が高いほど死亡率が低く、肥満率が低いと報告されている。 しかし、私たちの知る限りでは、かかりつけ医のアクセス格差と健康転帰との関係は十分に解明されておらず、日本の国レベルでも地域レベルでも、プライマリケア施設までの道路距離が長いことによる脳卒中の死亡率の人口起因割合（PAF）を検証した研究は存在しない。 本研究の目的は、静岡県にあるプライマリケア施設までの道路距離が長いことに起因する脳卒中の死亡率との関係を調査することである。 【方法】 2010 年国勢調査の基本単位ブロックの重心から、静岡県にある最寄りのプライマリケア施設までの道路距離を、地理情報システム（GIS）ソフトウェアを使用して測定した。次に、すべての自治体におけるプライマリケア施設までのブロック人口加重平均道路距離を計算した。脳卒中による死亡者数は人口動態統計局から入手し、ベイジアン空間条件付き自己回帰（CAR）モデルを使用して、自治体の医師数を共変量として含めた道路距離ごとの相対リスク（RR）を分析した。 【成果と今後の課題】 最寄りのプライマリケア施設までの道路距離に対する脳卒中による死亡の RR は男性(1.019: 95% CI 1.005-1.032)と女性(1.019: 95% CI 1.006-1.033)で有意に高かった。プライマリケア施設までの道路距離が長いと、脳卒中による死亡リスクが高まる可能性があることが示唆された。また、同じ都道府県でも医療圏に違いがある場合もあることが示された。	

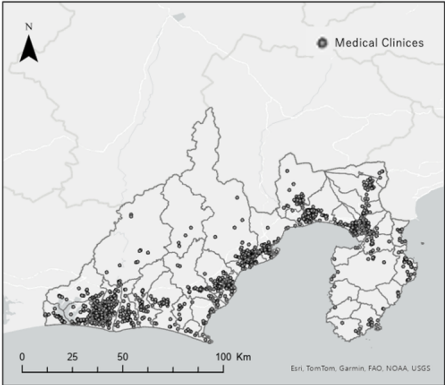


Figure 1.
Distribution of clinics that can diagnose stroke and ischemic heart disease in Shizuoka Prefecture